

2021 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

令和3年度 事業報告書



県有林より大森岳を望む

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

（公財）日本自然保護協会・（一社）てるはの森の会

2021年度 綾の照葉樹林プロジェクト 活動報告概要版

12月～3月

獣害防除作業



照葉樹林の復元

県有林造成事業(獣害防除)を行いました!(県)

シカ等の食害からカヤを守るため、獣類が嫌がる匂いがあり生態系に配慮した安全な薬剤を幹に塗って獣害対策を図っています。山間部で獣類の食べ物が不足する冬場(12月～3月)に実施し、散布は年2回で、1回目と2回目の散布間隔を1ヶ月以上空けています。

8月～3月

稚幼樹保護



照葉高木種稚幼樹保護を行いました!(国)

復元エリアに発生している照葉高木種稚幼樹をニホンジカの食害から守るため、育成を行う方法も復元の一つとして有効な手段であることから、林道からできるだけ近い箇所を選定し、照葉高木種稚幼樹の単木保護(ツリーシェルター径10cm×1.4mを50本)、幼齢木ネット(径27cm×1.4mを150本)と小面積保護(1辺の長さ10～20m×11ヶ所)を委託業務により実行しました。

3月25日

ボランティア林床調査



調査・研究

ボランティア林床植生調査を実施しました!(N J & T)

植栽後防鹿柵とツリーシェルターで保護した、ウラジロガシとアラカシの成長を、2年間ボランティアの方と共に、追跡調査しています。その結果、防鹿柵の方の根元径が太く、やや生残率がよいこと、ツリーシェルターは樹高成長はよいが、130cmのツリーシェルターを超えたシュートの先端部は採食されてしまうことがわかりました。

9月～3月

九州自然歩道
魅力ステップアップ事業



かんきょう教育

九州自然歩道魅力ステップアップ事業を行いました!(県)

九州自然歩道は、本県を縦断する長距離歩道であり、綾町にも約4.0kmの九州自然歩道が通っています。自然の大切さや森林の持つ公益的機能を感じることが出来るフィールドとして利用されるよう、令和2年度に実施した現況調査結果について、データ及び資料整理の委託業務を実施しました。今後の歩道の維持管理や利活用において、重要な基礎資料となることが期待されます。

8月～12月

災害復旧事業
(吊橋遊歩道)



かんきょう教育

綾照葉大吊橋遊歩道橋の補修をしました!(県)

照葉樹林を渡って周回する綾大吊橋遊歩道の一部で、倒木が歩道橋をふさぎ、転落防止用の柵が破損するなどの災害が発生しました。県では歩道利用者の安全な通行を確保するため、令和3年8月から12月の間、倒木の撤去および歩道橋の補修を行いました。

1月9日 大森岳散策



大森岳林道散策を行いました!(T)

森の行事がすべて、コロナ禍で中止となったため、急遽代替えのプログラムを行いました。10月の大森岳林道工事完了に伴い、綾町猟友会の案内で大森岳林道散策を実施しました。16名の参加者の半数が初めての参加でした。天候にも恵まれ、素晴らしい眺望がのぞめ、好評でした。

1月～3月

シカ被害対策



森と共生した地域づくり

シカ被害対策調査を始めています!(国)

川中神社周辺及び隣接する国有林(人工林)において、委託業務により自動撮影カメラ設置及び糞粒調査を実施、当該事業で得られたデータを活用しながら集中的にシカの捕獲圧を高め、天然力による照葉樹林の復元を図って行くことにしています。また、今後においても綾町民や地域の多様な主体の参画を得ながら、植生調査や自動撮影カメラのデータ回収等を実施する予定です。

地域づくり
ワーキンググループ



「おとなの山学校」事業の準備を進めています!(T & 町)

上畑自治公民館を中心に昼食付里山体験ツアー「おとなの山学校」事業で、モニターツアーを2回企画しましたが、コロナ禍で中止になりました。雨天プログラムの検討やメニュー開発を行い、再開に向け準備を進めています。

綾ユネスコエコパーク関連の活動を報告します!(町)

ユネスコエコパークに登録された自然生態系豊かな綾のフィールドを活かし、地元小中学生の環境学習を実施したり、県内の様々な学校からの校外学習(野外実習)や視察を受け入れたりしています。

〈令和3年度 活動実績〉()内は綾プロ関連の件数。

- ・視察、外部対応: 37件(0件)
- ・綾町主催のイベント: 40件(1件)
- ・他者主催の講座など: 7件(2件)
- ・取材対応: 9件(0件)
- ・調査、作業: 11件(11件)
- ・会議、打合せ: 108件(37件)

綾ユネスコエコパーク活動



※国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、町は綾町、N Jは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会
全は連携会議各機関

令和３年度 事業報告書

目 次

I	第Ⅳ期短期行動計画と令和３年度実施事業一覧	1-2
II	令和３年度 事業報告（※短期行動計画順に、実施した事業名・報告書記載者名を掲載）	
1	項目：協働の体制づくり ― 綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
1-3-①	綾プロ運営体制の見直し（連携：九州森林管理局・綾町）	3
1-3-②	プロジェクト事務局運営事業（連携：九州森林管理局・綾町）	4
2	項目：照葉樹林の保護 ― 保護林の計画的・順応的保全管理を実施	
2-2-②	電波通信環境改善事業（綾町）	5
3	項目：照葉樹林の復元 ― 照葉樹林への復元を推進する	
3-1-①	復元手法の検討（連携：九州森林管理局）	6
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局・宮崎県）	7
3-2-③	綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業（九州森林管理局）	8
3-3-②	照葉樹林復元の動態モニタリング等（九州森林管理局）	9
3-4-①	照葉樹林復元ボランティア作業の実施（九州森林管理局）	10
4	項目：照葉樹林の調査研究 ― 照葉樹林を適切に保全管理するための 調査研究を推進し、反映する	
4-5-①	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査（日本自然保護協会）	11
5	項目：照葉樹林を通した環境教育 ― 環境教育を推進する	
5-1-②	環境教育のための実施計画の検討（連携：九州森林管理局）	12
5-1-③	照葉樹林に親しむイベントの開催（連携：てるはの森の会）	13
5-2-②	路網整備（宮崎県）	(7)
5-2-②	九州自然歩道魅力ステップアップ事業（宮崎県）	14
5-2-②	遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）	15
5-2-③	県有施設災害復旧事業（宮崎県）	16
5-3-①	照葉樹林ガイド事業補助（綾町）、環境学習事業（てるはの森の会）	17

6 項目：プロジェクトの情報発信　－　情報発信及び支援の輪の拡大活動	
6-1-① 会員情報（てるはの森の会）	18
6-1-③④ 普及啓発事業（てるはの森の会）	19
6-1-④ ホームページ等による情報発信（九州森林管理局）	20
6-1-⑥ 事業説明会の開催（連携：九州森林管理局）	21
6-1-⑦ 照葉樹林復元のためのシカ被害対策（連携：九州森林管理局）	22
7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり－自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	
7-1-① 地域づくりワーキング事業補助（綾町）	23
7-1-② 照葉大吊橋 森の驛運営事業（てるはの森の会）	24
7-2-① 綾町森林づくりビジョン策定（綾町）	25
7-3-① ユネスコエコパークとの連携（連携：綾町・九州森林管理局）	26
7-3-① 綾町森林・林業関係検討会「綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」（九州森林管理局）	27
7-3-① ユネスコエコパークとの連携（綾町）	28
7-3-① 綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援（日本自然保護協会）	29
8 項目：生物多様性の保全　－　生物多様性の保全管理を推進する	
8-1-① 持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）	30
8-1-① 県営林造成事業（宮崎県）	(7)
8-2-② 綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（綾町）	31
 Ⅲ 令和３年度 綾の照葉樹林プロジェクト社会的活動まとめ	32
 Ⅳ 令和３年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧	33
 Ⅴ 令和３年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事	34

第Ⅳ期短期行動計画（平成30年度～34年度）と令和3年度実施事業一覧（案）
重点目標：①復元手法の検討 ②環境教育 実施計画の検討 ③綾プロ運営体制の見直し

第Ⅳ期短期行動計画					令和3年度事業報告			
項目	第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクト推進のための基盤整備	1. 協定書を見直し第Ⅴ期行動計画を作成する	①協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討 ②第Ⅴ期短期行動計画の策定	連携 連携			
			2. 中長期目標と目標設定の見直し	①目標を再確認し必要に応じて見直しを検討する	連携			
			3. 運営体制の見直し	①運営体制を再検証し再構築する	連携 国・町	綾プロ運営体制の見直し（連携）	全	3
				②専従職員を配置し事務局業務を行う	国・町 国・町	プロジェクト事務局運営事業（連携）	全	4
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1. 保全管理計画を策定する	①保全管理計画を策定する	国			
			2. 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	①巡視体制の構築	全			
				②管理施設（案内板・標識等）の整備	全 町	電波通信環境改善事業	局・県	5
3	照葉樹林の復元	照葉樹林への復元を推進する	1. シカ被害対策を含む効果的・効率的な復元手法を確立する	①復元手法を再検討する場を設ける	連携 国	復元手法の検討（連携）	全	6
				②シカ被害対策も含めた復元に向けた基本方針を策定し施行する	全			
			2. 計画的な施行を実施する	①計画的な間伐の実施（国有林・県有林・町有林）	国・県・町	人工林から照葉樹林への復元事業	—	7
				②復元見本林の整備	連携			
				③有害鳥獣捕獲の実施	国 国	綾プロエリア等における有害鳥獣捕獲事業	—	8
			3. 復元効果を評価する調査研究を推進する	①間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林・県有林・町有林）	国・県・町・NJ			
				②データの収集・解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・県・町・NJ 国	照葉樹林復元の動態モニタリング等	—	9
			4. 市民のプロジェクトへの参加を推進する	①市民参加型の復元作業の実施	国・T 国・T	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	T・全	10
			1. 協働した調査・研究の体制を構築する	①調査研究ワーキンググループの設置を含めた、調査・研究体制を検討する場を設ける	連携			
				②他のワーキンググループや調査研究機関との連携体制の整備	国・町			
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に保全管理するための調査研究を推進し反映する	2. 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	①調査・研究の基本方針（構想）を策定	国・県・町・NJ			
				②基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	国・県・町			
			3. モニタリング調査の実施	①保護林・緑の回廊に関する調査	国			
				②ナラ枯れに関する調査	国・県・町			
			4. 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	①GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ			
				②調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ			
			5. 市民のプロジェクトへの参加を推進する	①市民参加型の調査研究の実施	町・NJ・T NJ	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査	町・T・国	11

第Ⅳ期短期行動計画（平成30年度～34年度）と令和3年度実施事業一覧（案）
重点目標：①復元手法の検討 ②環境教育 実施計画の検討 ③綾プロ運営体制の見直し

第Ⅳ期短期行動計画					令和3年度事業報告			
項目	第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
5	照葉樹林を通じた環境教育	1. 基本計画を策定する	①基本計画を策定する	連携				
			②環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	国	国	環境教育のための実施計画の検討	全	12
			③環境教育プログラムを検討し試行的に実施	連携	T	照葉樹林に親しむイベントの開催（連携）	全	13
		2. 大吊橋周辺、川中自然公園、大口遊歩道等の活用方法を検討する	①環境教育に関する活用方法の検討	T				
			②必要なルート整備を実施	県・町・T	県	路網整備	—	(7)
					県	九州自然歩道魅力ステップアップ事業	局・町	14
					T	遊歩道整備ボランティア作業	県	15
			③崩壊した九州自然歩道について新たなルートや歩道復旧を検討する	県	県	県有施設災害復旧事業	局・町	16
		3. ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深める	①ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	照葉樹林ガイド事業補助	T	17
			②ガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T		環境学習事業	町	17
			③森林セラピーとの連携体制の検討	町・T				
6	プロジェクトの情報発信	1. 市民や企業など広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、参画や会員の拡大を図る	①サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	全	18
			②パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全				
			③ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	T	普及啓発事業	—	19
			④HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信	—	20
					T	普及啓発事業	—	19
			⑤フォーラムの実施	T				
			⑥事業説明会の実施	連携	国	事業説明会の開催	全	21
			⑦照葉樹林復元のためのシカ被害対策（新規）	連携	局	照葉樹林復元のためのシカ被害対策（新規）	全	22
7	照葉樹林と共生した地域づくり	1. 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	①地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	町	地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助	T	23
			②てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋森の驛運営事業	町	24
			③ふれあい調査の実施	NJ・T				
		2. 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	①照葉樹林都市・綾の森林ビジョン策定	町	町	綾町森林づくりビジョン策定	国・県	25
		3. 綾プロと綾ユネスコエコパークの連携を推進する	①ユネスコエコパークを推進する計画を策定し、実践する	国・県・町	町・国	ユネスコエコパークとの連携	全	26
					国	綾町森林・林業関係検討会「綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」	町・県	27
					町	ユネスコエコパークとの連携	町	28
					NJ	綾町ユネスコエコパーク専門委員会、地域連絡協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援	町	29
8	生物多様性の保全管理	1. 持続的林業経営の推進	①持続的な林業経営を行うエリアにおける施行の実施	国・県	国	持続的林業経営エリアにおける森林整備	—	30
		2. 生物多様性地域戦略を推進する	①綾町の里山周辺の植生調査	町・NJ	県	県営林造成事業	—	(7)
			②生物多様性地域戦略の実施	全	町	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業	NJ	31

事業名	綾プロ運営体制の見直し（継続）	実施主体	九州森林管理局 綾町
項目-行動計画- 実施項目	1- 3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	新たな運営体制を構築するため、綾プロの事業内容について、役割分担を含めた課題等を検証し、対面を原則とした協議を実施し、運営体制について1月の連絡調整会議で合意された。		

【事務局運営体制について】

令和3年度は、綾町と九州森林管理局が事務局を担当した。（4月～9月：綾町、10月～3月：九州森林管理局）

これまでてるはの森の会が事務局業務として担ってきたが、今後、九州森林管理局と綾町が担当できるか検討した結果、令和4年度は九州森林管理局が担当し、令和5年度は綾町が担当、以後1年交代で交互に担当することとした。

また、業務担当割り振り（案）を作成し、5者にて検討し承認を得た。

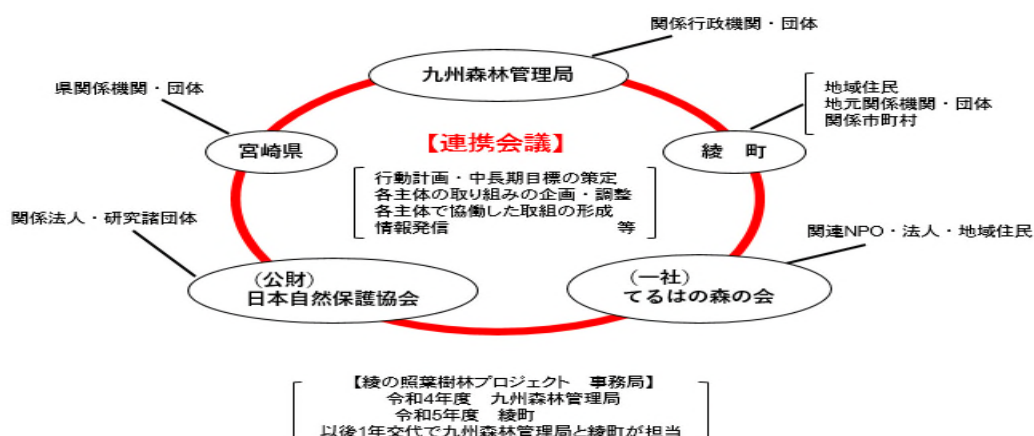
（下記運営体制図及び別紙綾プロ事務局運営体制のとおり）

【連携会議会則改正について】

「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画推進連携会議会則」について、事務局運営体制が変更となったことや、現状の綾プロ運営状況に則するような内容に変更することを連絡調整会議において検討し、承認を得た。効力は令和4年4月1日からとする。

記

綾川流域照葉樹林帯・保護復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）
運 営 体 制 図



綾プロ事務局運営体制

1. 事務局体制

従 来	令和 2 年度
連携会議会則（第 8 条）に基づき、 てるはの森の会が担当。専従 1 名を 置き、事務局の運営に必要な経費は、 同会又は綾プロに対する協賛金、個 人・法人会費、各種助成金、その他 の収入を充当。	試行的に綾町及び九州森林管理局が半年間の持回り で、課題を抽出し令和 3 年度からの事務局運営体制を 検討中。 （ てるはの森の会は、協定締結時の運営体制図 記載のとおり、綾プロに係る市民・法人の参画・ 支援（サポーター）の形成等に係る事業を実施。 ）
令和 3 年度	令和 4 年度以降
引き続き九州森林管理局及び綾町が半年間 持回り。5 者にて運営体制を検討。	九州森林管理局と綾町が 1 年交代で持ち回りの 予定。

2. 事務局業務の担当

業 務 内 容	事務局担当		備 考
	従 来	今 後	
連絡調整会議	○	○	5 者と連携
連携会議	○	○	5 者と連携
短期行動計画策定	○	○	5 者と連携
協定書更新	○	○	5 者と連携
連携会議会則改定	○	○	5 者と連携
事業説明（公民館大会など）	○	○	主担当機関（国）と連携
連携事業	○	○	主担当機関と連携
連携会議決定事業	○	○	主担当機関と連携
イベント対応	○	○	主担当機関及びてるは の森の会と連携
視察等受け入れ	○	—	町を主担当に
照葉樹林だよりによる情報発信	○	—	てるはの森の会にて 対応
会員募集・管理	○	—	
復元作業	○	—	国とてるはの森の会
地域づくりWG	○	—	町とてるはの森の会
げんだぼの森づくり	○	—	
ボランティア林床調査	○	—	Nacs-J とてるはの森 の会

事業名	プロジェクト事務局運営事業（継続）	実施主体	九州森林管理局 綾町																																		
項目-行動計画- 実施項目	1- 3-②	連携先	連携会議各機関																																		
事業概要 （目的）	昨年度に引き続き、プロジェクト関係機関と各種会議の調整・問合せ対応、事業の企画運営などを綾町（4月～9月）と九州森林管理局（10月～3月）により運用を行った。																																				
【連携会議】 第34回連携会議 令和3年7月30日 主な協議内容：（1）令和2年度事業報告書 （2）令和3年度事業計画（案） 第35回連携会議 令和4年3月10日 主な協議内容：（1）令和3年度事業報告 （2）令和4年度事業計画（案） （3）連携会議会則改正（案） 【連絡調整会議】 第1回 令和3年6月 3日 主な協議内容：（1）第34回連携会議について （2）令和3年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰：「綾プロ連携会議」受賞について 第2回 令和3年7月30日 主な協議内容：（1）第34回連携会議について 第3回 令和3年10月 8日 主な協議内容：（1）綾プロ照葉樹林復元検討会に向けての提案について （2）綾プロ連携会議におけるシカ被害対策（案）について 第4回 令和3年12月17日 主な協議内容：（1）綾プロにおける照葉樹林への復元のためのシカ被害対策等の取組の提案 （2）綾の照葉樹林プロジェクト森林環境教育実施計画（案）の策定について （3）住民説明会について 第5回 令和4年1月14日 主な協議内容：（1）綾プロにおける照葉樹林への復元のためのシカ被害対策等について （2）綾プロにおける照葉樹林を通した環境教育の取組について （3）綾町公民館大会における綾プロ活動報告について （4）綾プロ協定書修正（案）及び綾プロ運営体制図修正（案）について （5）第35回連携会議について、 第6回 令和4年3月10日 主な協議内容：（1）第35回連携会議について <table><tr><th colspan="2">連携会議 各機関担当者の数 ＊連携会議名簿による</th></tr><tr><td>九州森林管理局</td><td>2</td></tr><tr><td>宮崎森林管理署</td><td>1</td></tr><tr><td>宮崎県</td><td>3</td></tr><tr><td>綾町</td><td>4</td></tr><tr><td>日本自然保護協会</td><td>2</td></tr><tr><td>てるはの森の会</td><td>4</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>1</td></tr></table><table><tr><th colspan="2">連絡調整会議 各機関担当者の数</th></tr><tr><td>九州森林管理局</td><td>3</td></tr><tr><td>宮崎森林管理署</td><td>2</td></tr><tr><td>綾森林事務所</td><td>2</td></tr><tr><td>宮崎県</td><td>2</td></tr><tr><td>綾町</td><td>4</td></tr><tr><td>日本自然保護協会</td><td>2</td></tr><tr><td>てるはの森の会</td><td>3</td></tr><tr><td>学識経験者</td><td>1</td></tr></table>				連携会議 各機関担当者の数 ＊連携会議名簿による		九州森林管理局	2	宮崎森林管理署	1	宮崎県	3	綾町	4	日本自然保護協会	2	てるはの森の会	4	学識経験者	1	連絡調整会議 各機関担当者の数		九州森林管理局	3	宮崎森林管理署	2	綾森林事務所	2	宮崎県	2	綾町	4	日本自然保護協会	2	てるはの森の会	3	学識経験者	1
連携会議 各機関担当者の数 ＊連携会議名簿による																																					
九州森林管理局	2																																				
宮崎森林管理署	1																																				
宮崎県	3																																				
綾町	4																																				
日本自然保護協会	2																																				
てるはの森の会	4																																				
学識経験者	1																																				
連絡調整会議 各機関担当者の数																																					
九州森林管理局	3																																				
宮崎森林管理署	2																																				
綾森林事務所	2																																				
宮崎県	2																																				
綾町	4																																				
日本自然保護協会	2																																				
てるはの森の会	3																																				
学識経験者	1																																				

事業名	電波通信環境改善事業 新規)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2- 2-②	連携先	各機関
事業概要 (目的)	千尋自然公園地域の公共通信環境改善に関する事業を実施。		
設置場所およびキャリア回線の選定など、設置に向け検討中。			

事業名	復元手法の検討 継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3- 1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	連絡調整会議において、種子の採取・播種、植栽苗の育苗の手法等、先ずは実施の方向で取り組むこととなった。これに先立ち2月開催の公民館大会の発表の場を借りて綾町民等参画の呼びかけの予告を行う。		
・ 新型コロナ感染症対策のため公民館大会中止。 ・ スケジュール等具体の取組内容の検討を継続。			

事業名	人工林から照葉樹林への復元作業	実施主体	九州森林管理局 宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	3- 2-①	連携先	—
事業概要 (目的)	復元エリア、保護エリア、環境教育エリアの国有林において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐を実行。		
復元エリアにおいて、人工林から照葉樹林へ誘導するための間伐を実行。 ・ 作業種 : 本数調整伐（間伐） ・ 面 積 : 13.94ha ・ 作業期間 : 令和4年1月5日から3月18日（完了日：3月4日） 復元エリア：北浦国有林2 1 4 3 た外4 林小班  			

事業名	県営林造成事業(継続)	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	3- 2-① 5- 2-② 8- 1-①	連携先	森林経営課 森林管理推進室
事業概要 (目的)	持続的な林業経営を行うエリア等において、スギ人工林の間伐を実施する。 また、森林環境教育・保健休養的利用を図ると共に、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除を実施する。		

※短期行動計画の内容に重複する部分があることから、2項目の事業報告を行う。

1 間伐(列状間伐) 3- 2-①、5- 2-②
令和3年度は間伐の予定が無かったため、実績無し。

2 獣害防除(忌避剤散布) 8- 1-①

(1) 場 所 25世紀の森(カヤとスギの複層林)

(2) 面 積 3. 23ha

(3) 時 期 12月～3月



獣害防除(忌避剤散布)



カヤ植生状況

【参考】

○対 象 獣 : シカ

○薬 剤 名 : コニファー水和剤
(生態系に配慮した安全な薬剤、獣類が嫌がる匂いを発する)

○散布方法 : 1ha当たり原液12.5リットルの薬剤を、地際から1.5m高まで散布

○散布回数 : 年2回
(餌が不足する11月～3月が適期、2回目の間隔は1ヶ月以上開ける)

事業名	綾プロエリア等における鳥獣捕獲等事業 継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3- 2-③	連携先	—
事業概要 (目的)	綾プロエリア内にある大森岳林道、綾南林道沿い等において、請負事業による鳥 獣捕獲 誘引捕獲)を実施。		
大森岳林道周辺において、ニホンジカの捕獲を実施。 ・ 作業種 ： 餌を用いたくくりワナによる捕獲 ・ 捕獲頭数 ： 76頭（成獣67頭：オス47頭、メス20頭） （幼獣 9頭：オス 7頭、メス 2頭） ・ 期 間 ： 令和3年8月20日から11月30日（完了日：11月30日）			

事業名	照葉樹林復元の動態モニタリング等	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画 -実施項目	3- 3-②	連携先	—
事業概要 (目的)	発生している照葉高木種稚幼樹をシカの食害から保護し、育成を行う方法も復元の一つとして有効な手段であることから、復元エリアにおいて照葉高木種稚幼樹の単木保護及び小面積保護を実施・検証するため委託業務を実行。		

【業務名】

照葉樹林復元のための照葉高木種稚幼樹保護の試行及び林況等調査業務

【目的】

照葉樹林復元の妨げとなっている大きな要因の一つにニホンジカによる食害があげられている。そこで、発生している照葉高木種稚幼樹の保護育成を行う方法も復元の一つとして有効な手段であることから、本業務は、復元エリアにおいて単木保護及び小面積保護を実施し、今後の綾プロジェクトの取組に反映させることを目的とする。

【調査内容】

- ・過去の既存調査データを参考に、ある程度まとまって自然発生している照葉高木種の稚幼樹に対して、シカ防護柵による保護を行い、稚幼樹の成長を助ける。シカ防護柵の一箇所当たりの設置面積は、維持管理が容易な小面積（5m～20m 四方程度）で稚幼樹の生育状況により、1 小班当たり1～5 箇所程度とし、全小班のシカ防護柵設置総数量が支給材料の総数量を満たすこと。また、稚幼樹の生育状況や周囲の環境等を把握する必要があることから、柵内の植生及び照葉高木種稚幼樹の生育状況を調査・記録し、整理表を作成する。

- ・自然発生している照葉高木種の稚幼樹に対して、ツリーシェルターによる保護を行い、シカによる食害の影響を受けない高さまでの成長を助ける。ツリーシェルターの設置数は、稚幼樹の発生・生育状況により全小班で 200 基（幼齢木ネットを 150 基、ハイトシェルターを 50 基）とする。また、稚幼樹の生育状況や周囲の環境等を把握する必要があることから、保護対象樹木（照葉高木種稚幼樹）を調査・記録し、整理表を作成する。

【調査結果の取りまとめ】

- ・小面積保護及び単木保護のモニタリングについて、小面積保護及び単木保護の両方について、1年に1回程度の保護個体の観察と保護対策のメンテナンスを継続して行うことが望ましい。また、有識者ヒアリングの結果、保護対象種については、群落優占種だけでなく、原植生を構成する重要種も保護の対象にする方がいいとの意見があった。シカの影響が大きく現在減少している原植生を構成する重要種について、どのような種を保護の対象とするか検討する必要がある。

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3- 4-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	環境教育エリア等において、公募等によりボランティアを募集し、照葉樹林復元に係るシカ柵設置作業を2回程度実施。		
・予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。			

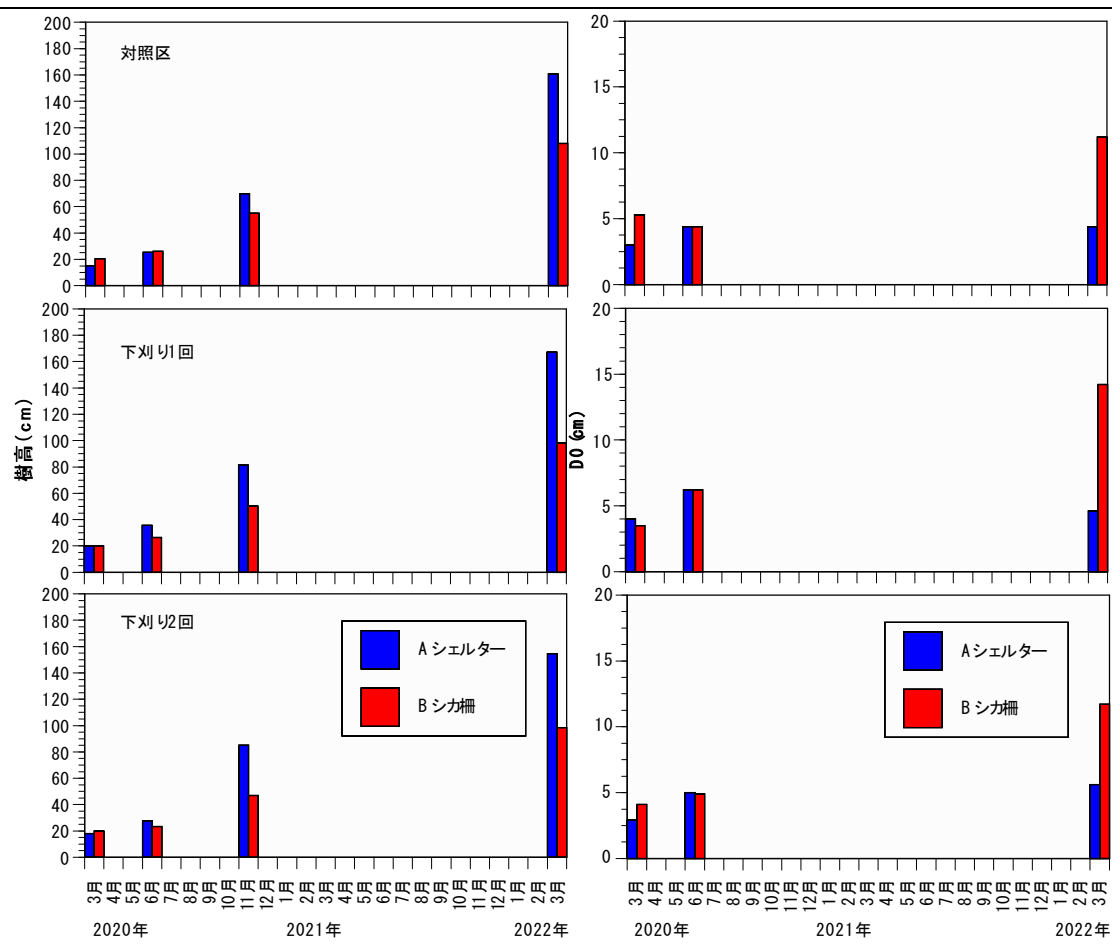


図1 樹高(m) (上) と根元径 (D0,mm) (下) の各条件ごとの測定値 (平均値)

事業名	環境教育のための実施計画の検討（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5- 1-②	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	各機関からのプログラムの取りまとめを行う予定としていたが、現状の取組状況を連携者間で把握した上で、令和5年4月1日以降の基本計画の作成に併せる形で検討していく。		
・ 検討を継続する。			

事業名	照葉樹林に親しむイベントの開催 継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	5- 1-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	町民を対象に、照葉樹林に親しむ散策や体験等を企画し、綾プロへの理解を深める		
○綾・照葉樹林ロングウォーキングは、コロナ感染が落ち着いた時期に開催予定だったが、開催できなかった。			

事業名	照葉樹林を通しての環境教育（新規） 九州自然歩道魅力ステップアップ事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5- 2-②	連携先	自然環境課
事業概要 （目的）	自然の持つ大切さや森林の持つ公益的機能を学ぶ魅力ある場として九州自然歩道を活用するため、地域住民等による自然体験プログラムの促進や利用環境の整備を行う。		

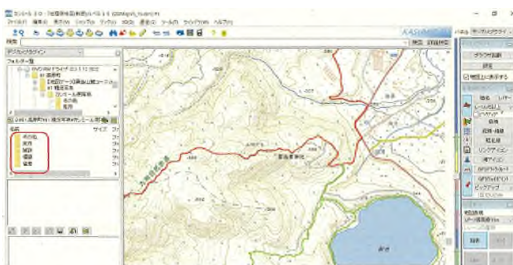
1 歩道利用活動支援事業

綾町自然体験・環境学習グループをはじめ、県内7団体等の九州自然歩道を活用した自然体験プログラム開発や利用環境の整備等の実施を支援。

2 安心安全な歩道整備事業

(1) 路線情報等集約業務

令和2年度に行った歩道の現況調査結果について、データ及び資料整理の委託業務を実施。今後の歩道の維持管理のあり方や活用を図る上で、重要な基礎資料となる。委託元：宮崎県治山林道協会）



(2) ホームページ作成、パンフレット印刷

ホームページやパンフレットを通じ、九州自然歩道に関する情報発信を行った。

(3) 利用環境整備

草刈や清掃等の歩道維持管理を委託したほか、県直営による落石撤去、標識再設置及び案内板の補修を行った。

事業名	遊歩道整備ボランティア作業 継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	5-2-②	連携先	宮崎県
事業概要 (目的)	照葉樹林トレッキングコースとして、歩道の整備や看板の整備等をボランティア と行い、新たな散策ルートとして活用する。		

○板木林道（歩道C線：大口遊歩道）

実施日：①10月19日（火）

参加者：①9名（会員3名、スタッフ1名、綾町職員2名、県職員3名）

1 昨年台風による被害個所の調査を、今後の整備個所の確認、看板の汚れ落としをしながら、おこなった。昨年よりは崩落が少なく、健脚者のみ通行可との表示をして通行再開することにした。



2014年2月改定版マップ



○川中自然公園 製材所跡整備作業

川中神社梅まつり当日に、製材所跡整備を計画していたが、コロナ感染防止のため、中止した。梅まつりは開催された。数件の開催問い合わせがあり、関心の高さがうかがえた。

事業名	照葉樹林を通しての環境教育（継続） 県有施設災害復旧事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5- 2-③	連携先	自然環境課
事業概要 （目的）	照葉樹林を生かした自然体験の場として魅力ある利用拠点を推進するため、九州自然歩道内の危険箇所の改善や防護柵等の設置により、安全で快適な機能を高める。		

1 倒木に伴う歩道橋破損の復旧

綾の照葉樹林プロジェクト区域の九州自然歩道の中で、特に照葉大吊橋を中心とするエリアは、豊かな照葉樹林を堪能できる場所として多くの観光客から親しまれている。

大自然を身近に体験できる九州自然歩道に対して、利用者が安全で快適に散策できるよう、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全対策等を行い、危険箇所を解消していく。

2 令和3年度実施内容

- （1） 施工場所 綾の照葉大吊橋 2042林班
- （2） 実施内容 倒木除去工 1式
歩道橋補修 1式
- （3） 施工期間 令和3年8月27日～令和3年12月20日
- （4） 施工主体 宮崎県（中部農林振興局）
- （5） そ の 他 令和2年7月の大雨により倒木が歩道橋を直撃し、歩道の通行が不能となり、歩道橋の手摺り等が破損したため、復旧工事を行った。



着手前



完成

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	5-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やプロジェクトの視察対応、広報活動を行う。		

① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動

令和2年度よりコロナ感染防止のため、基本的にガイド事業は中止とし、例外として県内からの依頼のみ対応したため、ガイド3回と下見の3回行った。また、綾里ガイドで11月12日(金)中坪保育所編中・年長児22名を綾神社周辺に案内した。これもガイド4人の日程が合わず、11月6日(金)と10日(火)2回の下見研修を行った。

登録者は現在5人、登録者に綾町在住者は0人となった。事業の継続のために、新規ガイド養成が必要と思われる。

参加者合計 4回 34名



NO	日程	曜日	来訪者名 団体名・ツアー名等)	主催者名	主催者所在地	ガイド数	参加者数
1	7月23日	金	生駒忠弘	個人	綾町研修中、京都大生	1	2
2	10月19日	火	宮崎県職員、綾町職員他	てるはの森の会	宮崎市	1	9
3	11月8日	月	ガイド講座講師	個人	東京都	1	1
4	11月12日	金	綾町中坪保育所 年中・年長児	吉川先生	綾町中坪保育所	4	22

① 照葉樹林ガイドボランティア研修

コロナ禍のため、実施できず。

スキルアップ講座ができないため、資料として南方新社発行の「九州 野山の花」を配り、資料とした。

事業名	会員情報 継続)	実施主体	てるはの森の会						
項目-行動計画- 実施項目	6－1－①	連携先	全						
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口としててるはの森の会会員へ入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を募集する。								
○正会員数　：R4.4.1現在 7名（内、理事4名） ○賛助会員数：R4.4.1現在 個人サポート会員　72件 法人サポート会員　14件 団体サポート会員　　8件 ○会費収入：　374,000円 ○寄付金収入：　52,938円 <table><tr><td>イベント等募金・ その他寄付</td><td>47,445</td></tr><tr><td>てるは大吊橋募金箱</td><td>5,493</td></tr><tr><td>計</td><td>52,938</td></tr></table>				イベント等募金・ その他寄付	47,445	てるは大吊橋募金箱	5,493	計	52,938
イベント等募金・ その他寄付	47,445								
てるは大吊橋募金箱	5,493								
計	52,938								

事業名	普及啓発事業 継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6-1-③、④	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌

「照葉樹林だより」59号の発行（令和3年7月20日発行）

- ・雲南の照葉樹林

「照葉樹林だより」60号の発行（令和3年10月20日発行）

- ・熱帯雨林の森林限界は照葉樹林

「照葉樹林だより」61号の発行（令和4年2月20日発行）」

- ・二つの北限常緑広葉樹林：照葉樹林と硬葉樹林



照葉樹林だより 61号

○てるはの森の会のホームページ <http://teruhanomori.jp/>



○てるはの森の会 facebook での情報発信

○視察対応 1件

○報告書の掲載

九州森林管理局と綾町エコパークセンターへ綾プロ報告書を送付し、HPへの掲載を依頼した。

事業名	ホームページ等による情報発信	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-1-④	連携先	—
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトでの取組について、9月に最新情報に更新。		

リンク先：<https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html>



綾の照葉樹林

綾の照葉樹林プロジェクトとは

照葉樹林への復元

これまでの取組

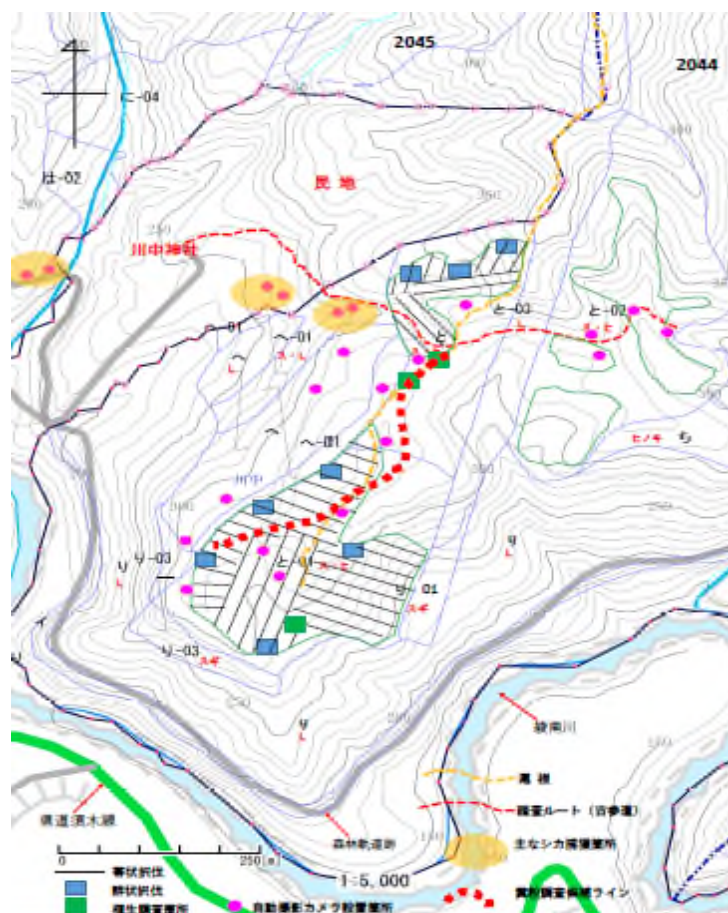
事業報告書

事業名	事業説明会の開催（継続）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6－1－⑥	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	綾町民等を対象に綾プロの普及啓発と合わせて、町民参加によるシカ被害対策とドングリの採取・育苗の取組の予告を行う。		
・2月に予定されていた公民館大会は、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となり、事業説明会は開催出来なかった。			

事業名	照葉樹林復元のためのシカ被害対策 新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6- 1-⑦	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	連絡調整会議において、川中神社周辺及び隣接する保護エリアの国有林(人工林)を主なエリアとして、集中的にシカの捕獲圧を高め、従来の間伐方法や他の伐採方法等やシカ防護柵の設置等によって、天然力による照葉樹林の復元を図る取組を進める。また、綾町民や地域の多様な主体の参画を得ながら、植生調査や自動撮影カメラのデータ回収等を実施することで合意。		

・2月7日連携者・有識者・猟友会等による現地調査、以後、局委託事業により自動撮影カメラ設置及び糞粒調査を実施(3月完了)。

シカ被害対策等現地図(2044林班)
(糞粒調査ライン)



事業名	地域づくりワーキングの設置と運営 事業補助 継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	7-1-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。		

検討会 4 回、書面決裁 1 回、コース整備 1 回、森の散策 1 回の計 7 回のワーキングを開催した。
里山散策体験ができる「大人の山学校」事業を企画立案し、昨年モニターツアーがコロナ禍で、実施できなかったもので、実施に向けて準備した。秋に計画したが、実施できず、1 月 22 日(日)ツアー依頼があったが、それもコロナ禍で中止になった。

「大人の山学校」の雨天プログラムの検討、メニュー開発を行った。雨天は、地域づくりWGの説明、上畑地域説明後、夏はシシ冷や汁、冬はシシ汁づくりという、プログラムができた。食の開発グループでは、冷や汁（シシだし、干し鮎だし）、軽羹（里芋、山芋）肉マン（シシ、シカ）などを作り、特にシシ冷や汁と肉マンが好評だった。

また、事業再開に向けて、ホームページの準備も行っている。

本事業が、綾ユネスコエコパークの魅力を多くの人に伝えられるよう、町民とともに取り組んでいきたい。

○ワーキング委員会実施スケジュール

	日 程	委 員 会 の 内 容	参加人数
1	R3 年 4 月 21 日(木) 19:00~21:00	・中刷り修正 ・モニターツアー	11 名 町職員 2
2	R3 年 6 月 17 日(木) 17:00~20:00	・中刷り修正確認 ・モニターツアーの実施 (10/23or24)	13 名 町職員 2
3	R3 年 10 月 14 日(木) 19:00~21:00	・モニターツアー中止」 ・依頼事業実施(1/22)	8 名 町職員 1
4	R3 年 11 月 18 日(木) 9:00~11:30	・依頼事業実施(1/22) ・コース整備 (12/2)	11 名 町職員 1
5	R3 年 12 月 2 日 (木) 9:00~11:00	・コース整備	9 名 町職員 2
6	R4 年 1 月 9 日(日) 9:00~13:30	・大森岳散策	10 名 町職員 1
7	R4 年 3 月 (書面決済)	・今年度の感想	

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業（継続）	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画 -実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要 （目的）	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」1F:無料休憩所、照葉樹林に関するビデオコーナーやパネル等を展示、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂）を運営する。		

綾照葉大吊橋は、コロナ禍のため、団体客を中心に観光客が減少し、3F「てるは森の驛」も日曜、連休のみの開館となった。

○3F：飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」 ○2F：木育広場として活用

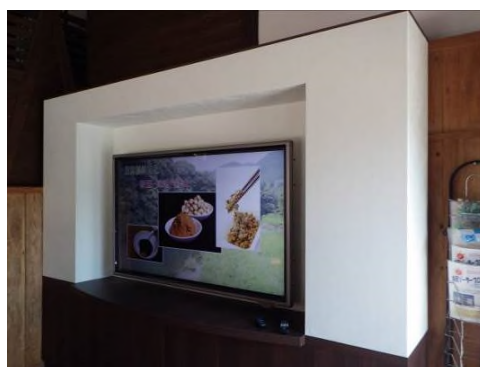


食堂のようす



木育広場

○1F：森の紹介ビデオコーナー



事業名	綾町森林づくりビジョンの策定 継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7- 2-①	連携先	九州森林管理局 宮崎県
事業概要 (目的)	平成 30 年 4 月に策定した綾森林整備計画策定と関連付けて策定を行う。		
綾町森林・林業関係検討会（綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署）の中で検討を行っている。 平成29年7月に綾町森林づくりビジョンの原案が策定されており、具体的な内容について、農林振興課を中心に加筆作業を行い、概ね完成。 令和3年度にイラストの追加修正を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、会議が開催されなかった。			

事業名	ユネスコエコパークとの連携 新規)	実施主体	綾町 九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	7- 3-①	連携先	各機関
事業概要 (目的)	ユネスコエコパークエリア 緩衝地域) 拡張に向けた調査の実施及び検討協議の推進。		
■綾ユネスコエコパークエリア（緩衝地域）拡張にむけた調査の実施および検討協議の推進 今年度は道路工事規制等で調査を実施できていないが、今後も九州森林管理局と調整しながら検討を進める。			

事業名	綾町森林・林業関係検討会 綾プロ 自然と共生する地域づくり支援事業」	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	7- 3-①	連携先	綾町 宮崎県
事業概要 (目的)	綾プロの保全管理計画との連携の中で、綾町の森林・林業の現状、問題、課題等について検討会を行う。また、各種イベント等の機会を捉えて本検討会の取り組みを紹介し、関係者による検討を重ね、その解決に向けて具体的な取り組みを協議する。		
・ 新型コロナウイルス感染症対策のため出来なかった。			

事業名	ユネスコエコパークとの連携 継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7- 3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾ユネスコエコパークと連携することで、綾プロの認知度を高め、活動を活性化 する。		

■綾ユネスコエコパーク推進の根幹となる協議会等の運営

令和3年 4月19日 (月) 運営会議
 " 8月19日 (木) 第12回専門委員会 一部オンライン
 " 3月22日 (火) 運営会議
 令和4年 3月24日 (木) 地域連携協議会 一部オンライン

各種協議会等を上記のとおり開催した。綾ユネスコエコパークセンターの利用状況、各事業の進捗状況の報告、ユネスコへの定期報告等について協議した。



<8/19 第12回綾BR専門委員会>

■綾ユネスコエコパークエリア内における生物多様性に関わる基礎調査の実施

主に緩衝地域の未記載生物等に係わる調査を多古羅周辺にて実施し昆虫類157種を確認。

■綾ユネスコエコパーク年間活動 令和3年度活動実績 180日、212件

綾ユネスコエコパークセンターを利用した小・中学校の校外学習等の対応を行った。新型コロナウイルスの影響により視察対応はほとんどなかった。

() 内は綾プロ関連の件数

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 視察・外部対応 | 37件 (0件) |
| 2. 主催イベント・講座等の開催 | 40件 (1件) |
| 3. 他者主催講座等への参加 | 7件 (2件) |
| 4. 取材対応 | 9件 (0件) |
| 5. 調査・作業 | 11件 (11件) |
| 6. 会議・下見・打合せ等 | 108件 (37件) |

事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援（継続）	実施主体	NACS-J、綾町
項目-行動計画-実施項目	7- 3-①	連携先	綾町
事業概要（目的）	地域連携協議会、専門委員会へ出席し、国内外の情報を活用してよい方向に進むようアドバイスを行う。		
講演			
・2021年6月8日信州大学 ESD コンソーシアムオンライン授業「ユネスコエコパーク」			
・2021年11月10日「生物多様性に関する NGO の観点」、林野庁森林技術総合研修所			
・2022年2月4日昇華小学校5年生「生物多様性」（東京都環境公社）			
論文			
・朱宮丈晴・伊藤彰伸（2022）人工林から自然林への復元技術の開発一日照条件からみた人工林の伐採幅の検討-群馬県立自然史博物館研究報告(26)：131-142.			
・朱宮丈晴（2022）温湿度環境からみた南北硫黄島の雲霧林の位置づけとその構造.荻部治紀編「小笠原諸島硫黄列島における動植物相と島嶼での進化」pp.11-20.神奈川県立生命の星・地球博物館.			
・朱宮丈晴（2021）硫黄列島と小笠原諸島の気象と植生パターンの比較.神奈川県立生命の星・地球博物館編「特別展示解説書「硫黄列島大百科」」pp.109-111.			
綾 BR			
2021年8月17日綾 BR 専門委員会			
2022年3月24日綾 BR 地域連携協議会			
R3 年度綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書（綾町委託）			
綾ユネスコエコパークセンターにおける環境教育の現状と課題（浅岡永理、麻布大学/NACS-J）			

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	8- 1-①	連携先	—
事業概要 (目的)	予定なし。		

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	8- 2-②	連携先	NACS-J
事業概要 （目的）	綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を日本自然保護協会に委託する。		

■植生調査

○植栽箇所の生残・生育状況調査

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策としてボランティア間伐作業が中止となったため、宮崎森林管理署が設置した試験地で、シカ柵とシェルターを施した苗の成長量を調査した。

シカ柵と比べてツリーシェルターの方が、苗の形状比が大きくなっており、シェルターを外した後の成長への影響が懸念される。またシェルターを超えた先端部にシカによる摂食痕が見られ、シェルターをシカ柵と同じ高さかそれ以上にする必要性がある。引き続きモニタリング調査を実施していく。

・調査地 国有林2004ろ林小班 綾プロエリア外 H29皆伐実施跡地)

・調査日 令和4年3月25日

・参加者 9名（日本自然保護協会、町、てるはの森の会、ボランティア）

○ボランティア市民による国有林における林床植生調査

林床調査ボランティアと連携し、綾プロエリア内の自然林の復元状況を把握するための林床植生調査を実施。過去の調査結果との比較から林床植生の組成の違いを明らかにした。

比較的小規模な間伐であったため樹冠はほぼうっ閉していたものの、ブナ科種群をできるだけ保残していたためそれらの成長が誘導されていた。林床も樹冠のうっ閉の影響を受け、総種数が減少し、耐陰性の高い常緑樹のみになりつつあった。かつシカの採食の影響もありシカの不嗜好性植物に偏ってみられた。

・調査地 県有林27林班ウ-1-1小班 綾プロエリア内 H21利用間伐実施)

・調査日 令和4年3月25日

・参加者 9名（日本自然保護協会、町、てるはの森の会、ボランティア）

■生物多様性地域戦略実施支援

①綾生物多様性地域戦略の見直し検討

綾BRが10年目を迎え、定期報告を提出するにあたり、次の10年に向けて綾生物多様性地域戦略の見直しを検討している。関係者にヒアリングを行い、綾町の現状や今後の課題についてとりまとめを行った。

②式部岳周辺の標高に伴う気温・湿度の変化

データロガーを標高200mごとに設置し、1年間を通して標高による気温・湿度の変化の調査を行った。

③綾ユネスコエコパークセンターにおける環境教育の現状と課題

学術的支援」機能の面に着目し、綾と同じく単独自治体により管理運営されている只見BRの只見町ブナセンターと比較ながら、綾ユネスコエコパークセンターの果たす役割を整理した。

■情報収集

国内外のユネスコエコパークや自然環境保全管理計画に関する情報を収集した。令和3年10月に行われたOECMについての勉強会資料やNatureの掲載論文、海外における定期報告作成事例について情報をとりまとめた。

令和3年度 社会的活動について

①綾の森に関する視察・研修・観光・学習・森づくり等対応数

A：綾プロを主な目的として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米

B：綾ユネスコエコパークの一部として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	オセアニア	欧州	アフリカ	北米	中南米
34							

②新聞・メディアでの露出数（キーワード「綾プロ」、「BR」、「照葉樹林の保護復元」）

媒 体					(件数)
新聞	雑誌/書籍	テレビ	ラジオ	インターネット	
14	7				

※新聞・雑誌/書籍は綾プロ報告書掲載分をカウント

③論文、寄稿、講演、表彰の数

媒 体						(件数)
論文(※1)	論文(※2)	論文(※3)	寄稿(※4)	講演	表彰(※5)	
				3	1	

※論文・寄稿は綾プロ報告書掲載分をカウント

(※1) 綾プロ関係者が発行者または著作者であるもの（調査報告書、事業報告、冊子含む）

(※2) 綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロの活動を取り上げ発行・著作したもの

(※3) 綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロフィールを取り上げ発行・著作したもの

(※4) 綾プロ関係者が他機関が発行・編集するものに依頼を受けて綾プロに関連することを執筆したもの

(※5) 綾の照葉樹林プロジェクト連携会議：令和3年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰受賞したもの

④各者の年間支出（てるは人件費・事業費の合計、その他4者は事業費のみ）

（単位 千円）四捨五入

九州森林管理局	宮崎県	綾町	日本自然保護協会	てるはの森の会
4,511	4,793	1,640	800	1,551

令和3年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局/執筆者	雑誌	種類	HP上での 公開/非公開	公開している HP名
ニホンジカの生息状況等調査	九州森林管理局	2022年	九州森林管理局		報告書	非公開	—
照葉樹林復元のための照葉高木種稚幼樹保護の試行及び林況等調査業務	九州森林管理局	2022年	九州森林管理局		報告書	非公開	—
学び	株式会社アイロード	2021年	株式会社アイロード	みちくさ 初夏号	雑誌	公開	旅の情報誌 みちくさ
特集 言葉には力が宿る！ 九州ゆかりの先人たち	生活協同組合連合会 コープ九州事業連合	2021年	クリム編集部	クリム 8月号	雑誌	一部公開	クリム
照葉樹林だより第59号～61号	(一社)てるはの森の会	2021～2022	(一社)てるはの森の会		会報	公開	てるはの森の会
ユネスコエコパーク通信 登録10年の取り組み報告⑧ 綾の照葉樹林プロジェクト	綾町	2022年	綾町役場	広報あや1月号	広報	公開	綾町役場 広報あや(2022)
令和3年度 綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書	綾町	2022年	(公財)日本自然保護協会		報告書	非公開	—

令和3年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事

掲載日	新聞社名	掲載内容
2021. 4. 12	宮崎日日新聞	綾で山林火災
2021. 5. 4	宮崎日日新聞	きょう「みどりの日」 若葉 太陽照らされ輝く 綾の照葉樹林
2021. 5. 28	宮崎日日新聞	みやざきSDGs 照葉樹林身近に感じて
2021. 6. 19	宮崎日日新聞	過疎集落記憶 デジタル化
2021. 8. 28	宮崎日日新聞	坂元守雄氏死去 県内自然保護に尽力
2021. 9. 3	宮崎日日新聞	多年草花壇作り 綾町建設課
2021. 9. 8	宮崎日日新聞	太陽光設置規制 綾町が条例提案
2021. 9. 18	宮崎日日新聞	照葉樹林保護活動 小川涉さんが死去
2021. 9. 24	宮崎日日新聞	時代の先行く活動家 坂元守雄さん
2021. 10. 1	毎日新聞	「てるはの森の会」理事小川涉さん死去
2021. 10. 18	宮崎日日新聞	豊かな森 将来像は 綾 里山づくりシンポ
2021. 10. 27	宮崎日日新聞	追想 自然保護 人生捧げる 小川涉さん
2022. 1. 1	宮崎日日新聞	学びやSDGs 綾中学校・宮崎大学
2022. 1. 28	宮崎日日新聞	2022 みやざきキーパーソン 自然との共生 原点回帰



発 行：令和 4 年 6 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：九州森林管理局計画課

お問い合わせ先：

〒860-0081 熊本県熊本市西区京町本丁 2 番 7 号

TEL：096-328-3613 FAX：096-325-3804 電子メール：ky_keikaku@maff.go.jp

ホームページ：<https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>